



No.64
2024.3.29
発行：特定非営利活動法人
所沢市学童クラブの会
広報部
所沢市くすのき台2-20-6
Tel：04-2994-6753

卒所おめでとうございます！

上新井学童



平成十四年に建築され、令和五年度を持って廃止された上新井学童クラブは、令和五年度を持って廃止された、新たに上新井すぎのこクラブが新設されま

多くの子ども達を送り出してきました。そのようなクラブの最後の卒所生は、六年生五名です。この二十二年間でたてみなとカレーを作れて楽しかったよ」「コマやベーゴ



マが練習して出来るようになって！」「他の学年と遊べて良かった」「縁日を、みんなで協力して準備することが特に楽しかった」「友達とケンカをした事もあったけれど、全部が思い出し、等、学童だからこそ出来たたくさん思い出を教えてくださいました。六年生から入所した子は、コロナ制限が無くなったことで行えたお好み焼きパーティーで、六年生同士の交流が楽しかったようです。

六年生はいつも一緒に下校をし、宿題の後は「何して遊ぶ？」と声を掛け合う中で、下級生も「入れて」「一緒に遊ぼう」と加わります。校庭

でソングをしたり、サッカーをしたりするなど仲の良さが感じられます。

自分たちのことだけでなく、下級生のことや、指導員が困っている、一緒に考えたり手伝ってくれたりする六年生がとても遅く、成長を感じています。

彼ら、彼女たちが大人になったときに、少しでも上新井学童クラブでの経験や、一緒に過ごした仲間との思い出が心に刻まれてくれていたら嬉しいです。

いつになっても私達はあなたたちの事を応援しています。

OBにインタビュー

前編

宮前学童

宮前学童を卒所して六年経った今、当会の学童でアルバイトをしてきている五人にインタビューをしました。



あゆみちゃん

一、高学年合宿で山のふるさと村に行って陶芸やそば打ち体験をしたり、みんなでカシ

アンケート
質問項目
一、学童で印象に残っている思い出を教えてください。
二、今だから言える！というよいなことはありますか？
三、今自分が学童で働いてみての感想を聞かせて下さい。

を作ったり、夜中にお散歩をしたことです。普段の学童の生活ではできない体験をすることができとても楽しく、今年に数回行っていた遠足では、あらかわ遊園やあけぼの子どもの森公園など、たくさん場所の連れてってもらい、色々な体験が出来ました。

二、正直四、五年生の頃は、自由に色々な子と遊びに行けない学童が嫌いで、親に駄々

をこねて学童を休ませてもらい、友達と遊んだりしていました。しかし、六年生になり、最後の一年を楽しもうと同級生との仲が特に深まり、学童の楽しさをすごく実感しました。下の学年の子達ともたくさん遊ぶようになり、「遊ばー」と寄って来てくれるようになりました。泥団子づくり、缶けり、カードゲーム、バスケットなど、一番密度の濃い一年になったと思います。同級生で学童に最後までいた七人は今

年になったら自分たちがそういう立場になって、今思うと学童は他の学年の友達とも遊べるところがいいところだと思います。

ひなたちゃん

一、特に印象に残っているのは高学年合宿とキャンプです。高学年合宿では、遅くまで起きて指導員に落書きしよう！と作戦を立てたりしてとても楽しかったです。キャンプはバスレク、班のごはんづくり、川あそびなど、友達の親にもたくさん遊んでもらったことが楽しかったです。また、誕生日にはリクエストおやつを作ってもらい、親からの手紙を読んでもらう特別な日を過ごすことができました。

低学年の時には、年上の子にたくさん遊んでもらい、高学

でも仲が良く、定期的に会って一緒に遊んでいます。

三、学童で働いてみて指導員の大変さを実感しました。自分たちがやんちゃしていた頃、たくさん迷惑をかけていたのだなと考えると、面倒を見てくれていた指導員には感謝し cannot です。あれだけたくさんの子ともたちがいるのに、子どもたち一人一人と向き合っ

えたり、言葉づかいに気を付けたら、指導員たちはこんなことに気を付けてくれたんだなと思うと同時に、学童にいた時間はとても安心してできたなと思います。放課後自由に遊べる友だちが羨ましくて学童に行きたくないと思っていた時もあったけど、学童にいられる時間は長いようで短いから一日一日を大切にたくさん経験をしながらかく過ごすって欲しいなと思います。

保育エピソード

山口学童

プラバンをおはじきみたいにはじき、相手のプラバンを机の下に落とす「プラバンバトル」を取り入れました。なるべく切る部分を減らして大きくしたり、かわいさを求める子はそのキャラクターの形に切ったり、プーメランのような形に切ったりその子その子の個性が見られました。

子どもたちに広まると「大会をしたい」との声が上がった。



できました。指導員が大会用の景品のプラバンを作るとたくさん参加がありました。四回ほどやっていくうちに「子どもたちで審判をできそうだな」と感じ、声をかけるといろんな子が審判をやってくれました。「大会を子どもたちだけで行えるなんて・・・」と子どもたちの成長に驚きました。

最近はずべて子どもたちで企画し景品も子どもたちが作

たもので行っています。

当初プラバンバトルを始めた時はここまでになるとは想像できませんでした。いろいろな遊びが子どもたちの可能性を広げるのだなと感じました。景品を作ってくれた子どもたちが「自分がほしい!」と思っ

プラバンとは…
プラスチックの板(略して「プラバン」)に絵を描いたり、切り抜いたりして、オーブントースターで焼くと、アクセサリやキーホルダーを作ることが出来ます。子どもたちに人気の工作です。

シリーズ前ちゃんの現地レポート⑤

今回は学童クラブでの日常と行事について若松学童クラブからリポートします。

「ありがとう2023」と題したお楽しみ会が年末最終日の十二月二十八日に行われました。企画は指導員。会場はいつもの遊び場、校庭全面。サッカーゴールで「ストラックアウト」、ろくぼくで「学童クイズ」、バスケットゴール近くで「大縄」「フラフラプ」、ジャングルジムで「じゃんけん」等々。内容は日々子ども達が遊んでいるあそびや生活をモチーフにしたものです。「学童クイズ」は、「指導員〇〇の苗字は?」「学童の台所にある椅子の数は全部でいくつ?」といったクラブでの日常が散りばめられていました。

に話してくれました。表情からも楽しかったことが感じられました。

お楽しみ会などのイベントは「行事」というくりの中で、非日常で特別な事として大事にしていると思います。その土台となっているのは、日常の生活なのだと、若松学童クラブの実践から感じました。いつもと同じ仲間と一緒に、慣れ親しんだ場所で行う行事。日常とは少し違うことをするけれど、傍にはいつもの仲間である友達と指導員達…という条件が、暖かな空気感を持続したまま子ども達をイベントの持つわくわく感へと誘ったのだと思います。日々子ども達の遊びや生活は、まさに宝物ですね。

子ども達の歓声や笑顔が広い校庭のあちろちろから聞こえてきて、あつという間におやつになりました。室内に戻るとおやつを頬張りながら、其々が体験して感じた感想を口



この人 地区長紹介



松崎 史織 指導員

東地区 地区長

安松学童クラブ

東地区は、牛沼、松井、和田、安松、ゴロニヤンの五クラブで構成されています。どの地区よりもベテラン職員が多く、職員体制が安定しているクラブが多いと思います。どのクラブの子どもたちもんびりで個性的な子どもたちという印象があります。学校の校庭や地域の公園、クラブ前の広場へ遊びに行くことができるので、外

遊びは充実している環境です。室内では、その時々によって子どもたちに流行る遊びは違いますが、体を動かす遊びも工夫して行われています。

地区長としてよかったことは、各クラブの保育に対して責任を持つことで、東地区の職員全員もその意識を持って保育をしていてくれていると感じられることです。また、地区の指導員会議はとても大切にしています。月に二回、職員が集まり、保育交流やレポート

討議、職員体制の調整を行っています。他クラブとの交流は、午後子どもたちの受け入れのために必要な準備だと思っています。子どもの行動の背景を読み取って情報を整理し、どうアプローチしていくのか考えて、保育実践をしてまた振り返る。そのためまい緑り返しが、学童保育指導員の仕事

だと思っています。

地区長として意識していることは、直接クラブに向向いて、状況確認をしていくことです。他クラブの保育に入る際は、特に生活環境が子どもの動きに対して最適かどうかには焦点をあてながら、保育にあたっては、自分が動いてみて気が付いたところについては、クラブに伝えていきます。

所沢で指導員として配属されたのは、山口学童クラブでした。私の一年目と山口学童の新設とは一緒のタイミングでした。そこから十二年間異動なく指導員として成長できたことはとてもよかったと思っています。私のライフステージである結婚や出産など一緒に喜んでくれて、悲しい出来事も一緒に泣いてくれた子どもたちや保護者との出会いは、今でも私の宝物です。

子どもたちにはこの先、自由な発想で社会に出てほしいです。たくさんチャレンジして、たくさん失敗して、たくさんの手ごたえを感じて、自分の大切な人とそのことを共有できる人になってほしいです。

書ききれないほどのたくさんの方の失敗や落ち込みがありました。子どもたち、保護者、指導員仲間、もちろん理事の皆さんにも支えられて今があります。学童保育は、まだまだ発展途上です。子どもを真ん中に、保護者の子育ての隣に指導員がいつもいられる信頼と安心感を持ってもらえるように努力していきたいです。

次はこの人



編集後記

広報第六十四号をお読みいただきありがとうございます。二〇二三年度のラスト号はいかがだったでしょうか。

今年度もあつという間に残りわずか。どのクラブでも思い出の場所との卒業や別れが少しずつ近づいていきますね。寂しさがつつい先行しがちですが、それぞれの場所に旅立っても学童で過ごした日々が子どもたちの未来に繋がっているのだなと感じた卒所特集でした。OBインタビューでは、学生さんになったみなさんに当時エピソードをたくさんお話ししていただきました! 大きくなって仲間との絆が繋がっているって素敵ですね。後編もお楽しみに!

この仕事に就いて六年目になりますが、これまで六年生が在籍していないクラブにいたのですが、今年度初めて学童から送り出します。異動したてで長い付き合いではありませんが、度々助けてくれた六年生には感謝の気持ちでいっぱい입니다。たくさんのおめでとう」と「ありがとう」で送り出したいと思っています。

卒業と共に新しい場所へ向かっていく六年生と、進級して一つ学年が上がる子どもたち。これからもステップアップしていく中で「あ、そういうのは…」と、心と思いで出してくれるような学童でありたいと思います。卒業、進級おめでとう!

(佐藤)